

心友 渡辺俊明さん

四十を過ぎて友人ができるとは思ってもみなかった。手紙を書いている間に親しくなってしまった。

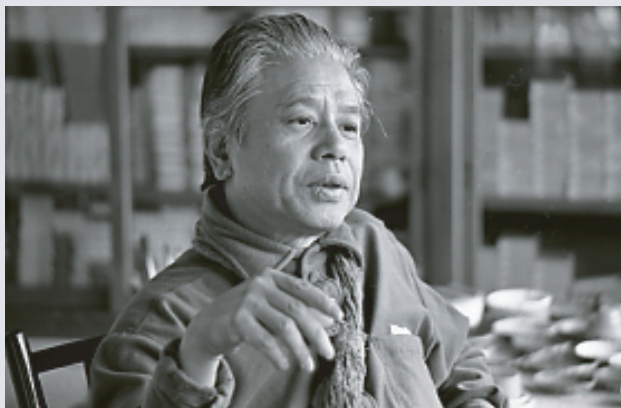
民画家の渡辺俊明さんは私に 1989 年 1 月から 1 日も欠かすことなく 10 年間も絵手紙を送ってくれた。私もまけず返事をかいた。実際に言うと、俊明さんの絵手紙には押されてしまった。押し出されそうになった。しかし、私はくらいついて行った。

なぜだろうか。私は絵の勉強をしていなかった。俊明さんの絵手紙で学んで行った。つまりはタダで通信講座で教えてくれたようなものだ。デカイのになると畳一枚よりも大きい。シールまで手がきで連作するほどの熱の入れようであった。

人はパンのみでは生きられぬと言われる。私もそれを実感した。俊明さんの手紙を毎日食べることで元気が出た。見るというよりムシャムシャと食べた。二人とも手紙を書かなければ生きられなかった。かくことが生きることであったと思う。

小池邦夫

渡辺俊明略歴



昭和 12 年 静岡県新居町に生まれる。

昭和 21 年 小学 4 年生に画家になる夢を持ち、少年期から青年期にかけて独学で絵を描き続ける。

昭和 47 年 浜松芸術祭典芸術大賞受賞

昭和 55 年 文部省買い上げ。種田山頭火の句を題材に百句を木版画にする。これを境に、中央美術への活動をやめ、民衆の中に目を向け歩き始める。
自らを「画工人」と呼ぶ。

日本だけでなく、世界各地でも精力的に個展を開催する。

平成 12 年 島根今井美術館 渡辺俊明自選展

平成 17 年 10 月 3 日没 享年 68 歳